

2016年度志願者数の推移

年	志願者数
2012	1,000
2013	1,000
2014	1,000
2015	1,000
2016	1,000

年	志願者数
2012	1,000
2013	1,000
2014	1,000
2015	1,000
2016	1,000

一方で、坂本学院長のように、

高齢化社会になるのだから、医師は余らないという意見もある。「地方では依然として医師が不足しています。都市部では外科・産科・小児科のように、なり手が少ない診療科もあり、偏在しているのが現状です。また、高齢や妊娠、出産などで稼働していない医師も登録されたままです。実際よりも働いている医師数は少ないのですが、医師余りにはならないと思います。医師同士が競争し、切磋琢磨していくことが、いい医療につながるのではないか」医師過剰になった場合、果た

医学部入試の変化にかかわらず、まずはこの傾向を頭に入れて、受験戦略を考えよう。

では、今後の医学部入試ではどうなことに気をつければいいのだろうか。富士学院の坂

井川先生は、「医学部入試は、必ずしも成績で決まるわけではありません。志願する大学によっては、面接が重要な評価基準となることがあります。そこで、志願する大学によっては、面接練習をすることが重要になります」とのこと。

「志願する大学によっては、面接練習をすることが重要になります」とのこと。

「志願する大学によっては、面接練習をすることが重要になります」とのこと。

「志願する大学によっては、面接練習をすることが重要になります」とのこと。

「志願する大学によっては、面接練習をすることが重要になります」とのこと。

Chaprer #
医学部入試の変化
どうぞお心

問題も増えていて、ます。医師にとつて正確な診断は大切です。そのためには粘り強く思考できることが重要ですから、今後も思考力を問う問題の出題が増えてくるのではないか」

本友対院長は、国公立大も私立大も、面接重視の動きがさらさら加速すると予想する。

「2023年問題で、日本の医学教育は変化することでしょう。今後は臨床実習の時間が増えて講義の時間が減るため、医師になるという強い覚悟がないと、留年や退学する学生が増えかもしれません。その防波堤として、各大学ともに面接には時間割き、医師になるための資質や自覚をしつかりとみていくことになると思います」

坂本学院長は、医師国家試験の問題に変化がみてとれることから、入試問題も形を変えていきだらうと考える。

「最新の医師国家試験の問題は、暗記型問題が減少し、問題解決型の出題が増えてきています。また、画像診断のように、蓄えた知識をもとに考えさせる

「最新の医師国家試験の問題は、暗記型問題が減少し、問題解決型の出題が増えてきています。また、画像診断のように、蓄えた知識をもとに考えさせる

Chaprer #
医学部入試
どうぞお心